

次期県立高校改革推進プラン（素案）概要版

I 計画の基本的な考え方

1 基本的コンセプト（目指すべき県立高等学校像）

（1）予測困難な時代の中で、生徒が主役となり、未来を切り拓く力を育む学校

- 生徒が、予測困難な社会においても、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら、豊かな人生を切り拓くことができるよう、個別最適な学びや協働的な学びを推進するなど、「令和の日本型学校教育」の実現を目指します。
- A I 等をはじめとする技術革新が一層進展し、社会や生活を大きく変えていく超スマート社会（Society5.0）に対応した、新たな時代に求められる教科横断的で探究的な学びを推進します。
- 生徒が、将来、社会人としての自覚を持って、人間関係を築きながら社会的・職業的に自立できるよう、体系的・系統的な一貫性のあるキャリア教育を推進します。

（2）各校の特色化を進め、生徒・教職員が生き生きと活動して、「自信」を育む学校

- 生徒の多様な学習ニーズに対応した教育活動を行う、様々なタイプの学校づくりを進めるとともに、共生社会の実現に向けた学びを推進します。
- 各高等学校の入口から出口までの教育活動の指針（スクール・ポリシー）に基づく魅力化・特色化を進めるとともに、各高校の魅力を引き出す、特色ある学科・コース等を設置します。
- 生徒が自ら学び考え、わかる・できる喜びを実感できるとともに、教職員も生きがいを感じ、自信と誇りや意欲を持って教育活動に当たる学校づくりを進めます。

（3）一人一人の可能性を広げ、地域から世界まで様々な舞台で活躍できる生徒を育てる学校

- 本県の高校生が将来、地域社会や世界で活躍することができるよう、郷土や国を愛する心や、グローバル社会で活躍するために必要な資質・能力を育みます。
- 指導方法や指導体制の工夫改善により、一人一人の生徒が、自分のよさや可能性を認識し、多様な人々と協働しながら様々な社会的変化を乗り越え、持続可能な社会の担い手を育成します。

（4）身近な課題を探究するなど、地域との絆を深め、地域とともに発展する学校

- 地域や家庭とともに教育を進めていくために、地域や保護者の声を学校運営に生かす地域学校協働活動を推進するなど、地域に信頼され、地域とともに発展する、開かれた学校づくりを進めます。

2 改革の方向性

- (1) **学習意欲を喚起し、可能性や能力を最大限に伸長する学びへの転換**
 - ・ 特色・魅力ある教育課程の実現と、カリキュラムマネジメントの推進
 - ・ 個別最適化された学びや協働的な学びの実現
 - ・ 特色ある総合学科や大規模単位制高校の設置
- (2) **Society5.0に対応した新時代に求められる探究的な学びの推進**
 - ・ 社会的な課題や最先端の学び、実践的な学びなど、教科横断的で探究的な学びの推進
 - ・ ICTを効果的に活用したSTEAM教育型高校の設置
- (3) **普通科を含めた全生徒のキャリア教育と職業教育の充実**
 - ・ 働くことの意義を学び、社会で活躍する人材の育成
 - ・ 高等教育機関や産業界等と連携した労働市場にあったキャリア教育の推進
 - ・ 企業等との連携による高度で先進的な学びの実現
 - ・ 外部人材の活用等による就職ミスマッチの解消
- (4) **共生社会の実現や多様な学習ニーズに対応した教育の推進**
 - ・ 共生社会の実現に向けた学びの推進（特別支援学校等との連携）
 - ・ 地域連携アクティブスクールの新たな設置
 - ・ 夜間定時制のあり方を検討し、定時制の学びの魅力化を推進
 - ・ 通信制高校の利便性を図るため、定時制高校との学校間ネットワークを推進
- (5) **スクール・ポリシーに基づく各校の魅力化・特色化と効果的な学校運営の推進**
 - ・ スクール・ポリシー策定による全ての高校の魅力化・特色化
 - ・ 各高校の魅力を引き出す、特色あるコース・学科等の導入を検討
- (6) **生徒が生き生きと学ぶことができる教育環境の整備**
 - ・ ICTや外部人材を活用した効率的な学習の推進
 - ・ 最先端のデジタル化に対応した機器整備、コーディネーター配置など、様々な学びに対応できる教育環境の整備
- (7) **地域や企業、教育機関等と連携・協働し、身近な課題解決を考える学びなどの充実**
 - ・ 高等学校と地域、企業、高等教育機関などが相互に連携・協働し、地域課題の解決に向け生徒の探究的・協働的な学びを推進
 - ・ 小・中学校、高校、特別支援学校との学校間連携の強化
- (8) **地域の特性に配慮し、地域の振興に寄与する高校の在り方や適正配置の検討**
 - ・ 生徒が多くの人・教師との触れ合いや、お互いの切磋琢磨により、活力ある教育活動を展開するため、学校規模の確保や配置の適正化を検討
 - ・ 少子化や地域の状況を踏まえた適正配置の考え方について検討

3 計画実施上の重点事項

| | |
|-----------------------------|--|
| 全ての高校の魅力化と 学びの改革 | <ul style="list-style-type: none"> ○スクールポリシーを基点とし、全ての高校の魅力化・特色化と学びの改革を推進 ○時代や社会が求める人材の育成に向け、新たな学科、コース、学びの設置 ○専門学科や特色あるコースの学びを生かし、高校と連携し小・中学校のキャリア教育を支援 ○学科・コースの特色を活かした学校間・学科間の連携を推進 ○小・中学校等との連携を軸とした戦略的な広報活動を展開 |
|-----------------------------|--|

II 魅力ある県立高校づくりの推進

| 区分 | | 計画素案 |
|---|------------------|---|
| 1 普通科及び 普通系専門学科・ コース | 普通科 | <ul style="list-style-type: none"> ○普通教育を主とする学科（学際領域に関する学科、地域社会に関する学科）等の設置について検討 ○関係機関等との連絡調整を担う職員の配置検討 ○多様な学習ニーズに対応できる総合学科への転換 ○より一層弾力的な履修が可能な単位制の導入 |
| | グローバルスクール 国際科 | <ul style="list-style-type: none"> ○グローバルスクールの新たな指定について検討 ○探究的かつ協働的な学びの推進 ○既存の英語コースの見直しも含め、国際関係コースの新たな設置について検討 |
| | 理数科 | <ul style="list-style-type: none"> ○県全体の理数教育の充実を図るため、理数教育拠点校を設置 ○高大連携事業、スーパーサイエンスハイスクール (SSH) 事業の積極的な活用を推進 ○総合学科理数系列や普通教育を主とする学科としての理数探究科等への改編など、その在り方について検討 |
| | 体育科、芸術科 | <ul style="list-style-type: none"> ○現有施設・設備を有効活用しながら、探究的、協働的な学びに取り組み、更なる充実を推進 ○芸術科について、芸術系大学等への進学など様々なニーズを視野に入れ、学科、コース及び系列の新たな設置について検討 |
| 2 職業系専門学科・ コース | 農業科 | <ul style="list-style-type: none"> ○農業教育拠点校及び「アグリサポーターズちば」の運営を活性化させ、関係機関や地域との連携による活動を更に推進 ○担い手育成やスマート農業、GAP、6次産業化等の農業施策と整合した教育の推進に留意し、学科間、学校間連携を推進 ○幅広い動物の飼育について学べる学科への再構成を含め、新たなコースの設置や学びの導入を検討 |
| | 工業科 | <ul style="list-style-type: none"> ○工業教育拠点校による活動を更に推進し、工業教育の質を向上 ○「工業系高校人材育成コンソーシアム千葉」を活性化させ、社会の変化に対応し、様々な舞台で活躍できるものづくり人材を育成 |

| 区分 | | 計画素案 |
|------------------|-------------|--|
| 2 職業系専門学科・コース | 商業科 | <ul style="list-style-type: none"> ○大学や専門学校等との連携による、進学を重視した教育や高度な資格取得に基づくスペシャリスト育成を推進 ○観光等のコース・科目の設置や普通科に商業に関する学びを導入 ○Society5.0 に対応し、プログラミングのスキルを活用したアプリ作成等、最先端技術を取り入れた実践的な学びを推進 ○他の職業系専門学科との連携を推進し、企画、生産から加工・流通・販売まで、協働的な学習を推進 |
| | 水産科 | <ul style="list-style-type: none"> ○地元漁協・企業、大学・研究機関、行政機関等との連携を強化 ○海洋関連産業全般をとらえた水産教育を推進し、海洋開発や新たな視点での栽培漁業など幅広い水産教育の充実 ○海技従事者の養成に向け、実習船の活用と専攻科との連携を強化 ○後継者の確保・育成の可能性を広げるため、水産科の在り方や柔軟な生徒募集について検討 |
| | 福祉科 | <ul style="list-style-type: none"> ○拠点校とコース・系列設置校が相互に連携し、県内福祉教育を充実 ○学校間連携を推進し、学科やコース等の枠を超え福祉の学びを拡大 ○福祉系大学・社会福祉協議会や社会福祉施設等との連携を推進し、インターンシップや実習等を充実させ、職業教育を充実 |
| | 家庭科、看護科、情報科 | <ul style="list-style-type: none"> ○社会や時代のニーズに対応するため、教育内容の一層の充実を図るとともに、生徒の志願状況や既設校の実態を踏まえ、必要に応じて新たな学科、コース、学びの設置について検討 |
| | 総合技術高校 | <ul style="list-style-type: none"> ○既設の総合技術高校については、併設学科の学習内容を踏まえ、より一層連携を推進 ○例えば、複数産業の協力が必要となる海洋開発において、工業科と水産科が、学科連携するなど、社会や時代のニーズに対応した新たな学びについて研究・推進 |
| 3 総合学科 | | <ul style="list-style-type: none"> ○STEAM 教育の導入や幅広い学びのニーズにも対応できる系列など、多様なタイプの総合学科高校の設置について検討 ○普通科の転換により、総合学科を新たに5校程度設置 ○系列や選択科目の見直し、単位の半期認定の実施など、教育内容を一層充実 ○定時制高校への新たな設置について検討 |

| | 区分 | 計画素案 |
|--------------------|----------------|--|
| 4 社会のニーズに対応した教育 | 単位制高校 | <ul style="list-style-type: none"> ○進学指導重点校など3校程度の導入を検討 ○多様な選択科目の拡大、ガイダンス機能の充実、単位の半期認定の実施など、単位制の高校の特性を生かした教育内容の充実 ○大規模単位制高校の設置について検討 ○単位制の魅力や特色を、中学校の生徒・保護者・教員に積極的に広報 |
| | 中高一貫教育校 | <ul style="list-style-type: none"> ○国の施策や他県の状況を注視しつつ、県内の地域の状況も踏まえ、引き続き研究 ○既存の併設型中高一貫教育校については、教育内容を一層充実 ○既存の連携型中高一貫教育校については、連携や学校の活性化方を検討 |
| | 観光・環境・防災に関する教育 | <ul style="list-style-type: none"> 《共通》 ○地域との連携をさらに深める体制づくりに努め、必要に応じて新たな設置について検討 ○学びの成果を全県立高校で共有し、積極的に活用する仕組みを研究 《観光》 ○千葉県恵まれた観光資源（豊かな自然、歴史的遺産、国際空港、ゴルフ場、マリンスポーツ等）を有効活用し、新たな学びの導入について検討 《環境》 ○環境教育を通じて、激変する地球環境に対応し、持続可能な社会作りの担い手を育成 《防災》 ○昨今の地球温暖化による大雨や台風といった自然災害の増加を踏まえ、地勢、地質、気象等に応じた防災教育の充実 |
| | 地域連携アクティブスクール | <ul style="list-style-type: none"> ○地域と連携を進め、自己肯定感を育み、自立した社会人の育成に向けたきめ細かな指導を実践 ○学びのセーフティネットとして、きめ細かい教育相談体制により生徒の成長を支える指導を充実 ○県内の高等学校に向け、そのスキルを発信し、共有 ○地域バランスや生徒・保護者等のニーズを踏まえ、新たに4校程度設置 ○地域連携アクティブスクールの魅力を中学校の生徒・保護者・教員に積極的に発信 |
| | 定時制高校 | <ul style="list-style-type: none"> ○通信制協力校の指定や、遠隔での面接指導の導入など、定時制と通信制の更なる連携について検討 ○生徒一人一人の多様なニーズに応じた個別最適な教育活動を展開するため、専門スタッフによる支援体制を充実 ○多様な生活スタイルに対応するため、多部制定時制高校の設置について検討 ○多様な学びのニーズに対応するとともに、キャリア教育を推進するため、総合学科の新たな設置について検討 ○就労支援機関との連携を促進し、学校外の学修を活用し、キャリア教育を更に充実 |
| | 通信制高校 | <ul style="list-style-type: none"> ○通信制協力校の更なる拡充を推進 ○映像教材やインターネット等の情報通信技術（ICT）を活用した学習支援を推進 ○関係機関との連携を図り、教育相談や就職支援など、より充実した対応を推進 |

Ⅲ 県立高校の適正規模・適正配置

| 区 分 | 計画素案 |
|------------------|---|
| <p>適正規模・適正配置</p> | <ul style="list-style-type: none"> ○多くの仲間・教師との触れ合いやお互いの切磋琢磨の機会を確保し、教育課程の柔軟な編成や活力ある教育活動が展開できるよう、学校の規模・配置の適正化を推進 ○都市部では、1校当たりの適正規模を原則6～8学級とし、適正規模に満たない学校や同じタイプの学校が近接している場合については、統合による多様な学びへの変換や新たなタイプの学校への再編を検討 ○郡部では、1校当たりの適正規模を原則4～8学級とし、適正規模に満たない学校については統合の対象として検討するが、学校・地域の状況等に配慮し、統合しない場合もあります。 ○中学校卒業生数が減少する中、活力ある教育活動を維持するため、適正規模・適正配置の観点から、10組程度の統合について検討 その際、地域協議会等において幅広い視点から意見を聴取 ○多様なタイプ学校の中から、生徒が興味・関心や進路に応じて、自分に合った学校が選べるよう適正配置に配慮 ○定時制高校については、ニーズ、地域バランス等を考慮し、配置の在り方について検討 ○通信制高校は、県内全域の生徒が学ぶことができる体制づくりを検討 |